

# ホクギン県内景気動向調査

平成16年9月実施

## 要 旨

2004/7～9期の業況判断DIは、前期比7.0ポイント低下の△9.8%と、今期は改善の動きに一服感が窺えた。業種別に見ると、製造業のDIは前期比12.9ポイント低下し、足元回復のテンポはやや弱含んだ。卸・小売業は4.3ポイント上昇するなど、持ち直し基調で推移している。サービス業は10.0ポイント低下し、力強さに欠ける展開となっている。建設業は2.1ポイント低下し、横這い圏内での推移が続いている。2004/10～12期のDIは、4.7ポイント上昇の△5.1%と、景況感の持ち直しが予想される。業種別に見ると、製造業、卸・小売業、建設業でDIの上昇が予想される。一方、サービス業の業況判断は、厳しい見方が多くなっている。

景況感を従業員規模別に見ると、「50人以下」と「51人～100人」の規模は水面下での推移が見込まれる。一方、「101人～300人」と「301人以上」の規模は、改善一服後に再び持ち直しが予想されている。

雇用状況面では、これまで正社員の過剰感は薄れつつあったが、今回調査では足踏みを示した。一方、正社員以外では引き続き不足感が見られている。

【パートタイマーの雇用状況について】

パートタイマーが担当している業務は、「正社員の補助的業務」が回答企業の69.3%を占め、「正社員と同じ基幹的業務」は24.3%となっている。パートタイマーの待遇については、「経費負担の伴わない制度を今後、充実させたい」が32.2%、「今後は制度を充実させたり、人件費を増加させたい」が12.1%であった。小売業とサービス業では半数を超えており、業種により考えの違いも見られた。

## 調査の概要

- 調査時点 平成16年9月1日～9月10日
- 調査方法 郵送による記名アンケート方式
- アンケート調査依頼企業数 564社
- 回答企業数 284社（うち有効回答284社）
- 回答率 50.4%

内訳：業種別（構成比）		従業員数別（構成比）	
製造業	108社（38.0%）	50人以下	102社（35.9%）
卸・小売業	70社（24.6%）	51～100人	81社（28.5%）
サービス業	50社（17.6%）	101～300人	63社（22.2%）
建設業	48社（16.9%）	301人以上	28社（9.9%）
その他・不明	8社（2.8%）	不明	10社（3.5%）

## ホクギンDIとは

- 景気や業況に関する判断を「良化」「変わりなし」「悪化」といった選択肢から選んでもらい、以下の式により数値を求めたもの。  
ホクギンDI = (「良化」と回答した企業割合) - (「悪化」と回答した企業割合)
- DIとは Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、経営状態を判断する指標。
- 選択肢は、質問内容によって「増加」「横這い」「減少」や「余裕」「普通」「窮屈」などの場合もある。